

個別最適な学びとは…

本校では、令和6年4月に「(主体的・対話的で)深い学び」の実現に向けた授業改善のため、「課題設定」「対話活動」「振り返り」を3本柱とする仁尾中授業デザインを考えました。そして、深い学びを、「生徒の好奇心が、『できた』『やった』『もっと知りたい』『もっと考えたい』『次は○○について考えたい』『やってみたい』という探究心や自信へと変わるような学び」と捉え、授業デザインを有効活用しながら授業研究を進めてきました。

今学期からは、普段の授業でタブレットを活用できていない現状(1学期末の教師評価は26%)を改善するため、生徒が自己の特性や学習進度等に応じ、自らの学びが最適となるように学習の課題や内容、教材や方法等を選んだり決めたりしながら学ぶ「個別最適な学び」に、方向性をシフトして研究を進めることにしました。この「個別最適な学び」には以下の3つのねらいがあります。

- 子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援する →**指導の個別化**
- 子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整する →**学習の個性化**
- **1人1台端末(タブレット)の活用**

以上を踏まえ、現在は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を行うまでの学び方(教師による一斉指導、個別に考える、小グループで考える)の1つとして捉え、研究を進めています。

9月中旬に、「個別最適な学び」をテーマとした今年度2回目の研究授業を実施しました。教師の体調不良があり、今後実施する教科もありますが、音楽と理科で研究授業を行い、終了後に異教科グループでの討議会を行って提案内容について議論しました。私も研究同人として、2つの授業を含めた普段の授業を参観させてもらい、以下のような気づき・感想をもちました。

★最終的なゴールは、教師の都合とタイミングで教える授業から、子どもたちの都合とタイミングで学ぶ学習への転換である。今どれぐらいの時間、子どもの前でしゃべっているかを考えてみてほしい。時間が短いほど、個別最適な学びに近づいている。

★タブレットを活用した授業が増えている。タブレットの利点を生かした実践を日々重ねながら、より良き方法の模索に努めてほしい。

研究はスタートしたばかりです。確かな実践を積み重ねながら、着実な前進と、そして子どもたちの将来を見据えた指導への授業改善ができるよう頑張っていく所存です。



豊かな心

9/26(金)の午後、瀬戸芸アーティストプログラム、29(月)の午後、音楽鑑賞会を行いました。

1学期に実施したオペラ鑑



賞会と同様、昨年度末に応募していたものが採用されて、今回実現しました。当日は、瀬戸芸の芸術家さんや、よんでもん文化振興財団から3名の音楽家の方が来校してくれました。瀬戸芸は2年生、音楽鑑賞会は全校生が参加しましたが、非常に有意義な時間になりました。心が豊かになりました。

豊かな心

お盆前の大雪による甚大な被害にあった熊本県玉名市と鹿児島県霧島市に、メッセージ入り土のう袋を送りました。参加した子どもたちは、現地のことを詳しく調べ、ご当地キャラ等を描くなど、心を込めて仕上げました。荷物が到着後にお礼の手紙をいただきましたが、現地は急ピッチで復旧作業に取り組んでいるそうです。

